

LION「Choose one Project」をアースデイに活動宣言 プロジェクト発表会と異業種企業によるパネルディスカッションを開催 ～服に、地球に、ちょっといいセンタクを。～ 毎日のお洗濯の習慣がエコになる

ライオン株式会社(本社:東京都台東区)は、サステナブルな社会の実現に向け、生活の中のお洗濯のエコ習慣として、“すすぎ1回”と“衣類のロングライフ化”を提唱する「Choose one Project」を立ち上げ、2024年4月22日(月)のアースデイ(Earth Day)に合わせてプロジェクトを宣言し、活動を開始致します。

これに先立ちまして、2024年4月18日(木)にプロジェクトの発表会とサステナビリティへの取り組みについて、異業種の企業の方々をお招きしたパネルディスカッションを開催致しました。



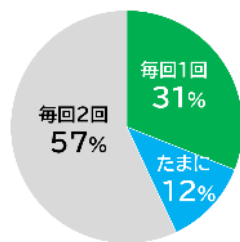
アースデイに宣言。「Choose one Project」とは ～服に、地球に、ちょっといいセンタクを。～

「暮らしの中で人は毎日のように洗濯をする。その1回1回のお洗濯が少しでもよければ。」という思いからこのプロジェクトはスタートしました。

当社では、家庭でのCO2排出量の削減につながる製品で「エコの習慣化」を提案しており、販売する衣料用液体洗剤はすべて“すすぎ1回”のお洗濯が可能です。“すすぎ1回”のお洗濯は、すすぎ2回と比べ節水・節電・時短になるばかりでなくCO2排出量の削減にもつながります。

また、すすぎ回数を減らすことで衣類へのダメージが抑えられ、衣類の長持ちにもつながりますが、生活者のすすぎの実態を調べると、まだすすぎ2回派が多く、すすぎ1回派は約40%にとどまっていることがわかりました。

そこで、お洗濯のエコ習慣として“すすぎ1回”(Choose one)を推奨するプロジェクトを立ち上げ、CO2の削減と“衣類のロングライフ化”が実現する社会をめざします。地球の環境保護への支援を示すアースデイに本プロジェクトを宣言し、活動を推進してまいります。



【2022年ライオン調べ 洗濯実態調査】

【「Choose one Project」活動概要】

■プロジェクトの最新情報を「Choose one Project」サイトで発信

毎日のお洗濯のすすぎを1回にするだけで、「服に、地球にちょっといいセンタク(洗濯)になる」の思いを大切に。暮らしの習慣を少し見直すことで、自分にも社会や環境にも気持ちの良い選択ができるよう、情報を随時アップデートし配信します。 「Choose one Project」サイト <https://go-lion.jp/ChooseOne001>

■広げよう“すすぎ”のエコ習慣。oneの日(毎月1日)キャンペーン

“すすぎ1回”を推奨するX公式アカウントにて、毎月1日を“oneの日”とし、キャンペーンを実施します。

“すすぎ1回”を実践した画像や体験をコメントにして投稿した方の中から抽選で、すすぎ1回の『NANOX one』をプレゼントします。



メディア発表会 & パネルディスカッション

「Choose one Project」の活動開始に先立ち、プロジェクトの発表会とパネルディスカッションを開催しました。

第一部の発表会では、ライオン株式会社 ヘルス&ホームケア事業本部 ホームケア事業部 ブランドマネジャー 金子 智之より「プロジェクトの概要」を、また同事業部 長池 英二より「お洗濯で実現するサステナブルファッション」についてプレゼンテーションを実施しました。

第二部のパネルディスカッションでは、株式会社ツインバード様、株式会社FABRIC TOKYO様、株式会社LIFULL様に登壇いただき、当社も参加して、『「習慣」を起点としたサステナビリティに関する各社取り組みについて』をテーマに意見を交わしました。



【第1部「Choose one Project」発表会】

■「Choose one Project」概要

—ライオンが挑戦したい未来は、サステナブルな洗濯社会の実現—

ホームケア事業部 ブランドマネジャー 金子 智之

洗濯のすすぎ回数についてなぜ私たちが呼びかけるのか、その意味についてご説明します。

調査によると※、毎回のお洗濯で、すすぎを2回している方が半数を超えており、毎回すすぎ1回にしている方は全体の約3割という状況でした。そこで、より多くの方にすすぎを1回にするメリットを呼びかけることでエコの習慣につながるのではないかと着目しました。

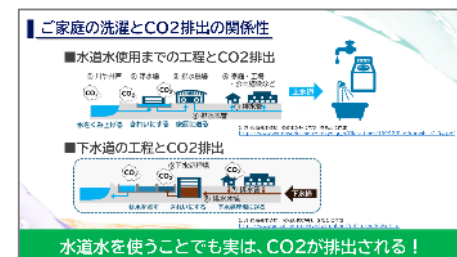
すすぎ1回あたりの水量は約36リットルで、1リットルのペットボトル36本分です。これを毎日一年間続けると、お風呂で浴槽に貯める量の約2か月分の水量になります。

すすぎの回数を減らすことは、節水ばかりでなく、CO2排出削減にもつながります。水を洗濯の水として使ったり、洗濯後の排水を下水処理してきれいにして排水として流すために「エネルギー」を使用しており、その際にCO2を排出しています。

ですからお洗濯での水量や排水が少ない“すすぎ1回”にすることは、節水、節電、そして脱炭素に繋がるエコ習慣と言えるのです。

われわれが挑戦したい未来は、サステナブルな洗濯社会の実現です。「oneを選ぶ」をコミュニケーションメッセージとして、洗濯の節水・節電でECOな“すすぎ1回”を選ぶということのご紹介、呼びかけを、積極的に行ってまいります。

※ 2022年 ライオン調べ。グラフ前掲



■「お洗濯で実現するサステナブルファッション」

—“衣類のロングライフ化”をキーワードに開発した『NANOX one』—

ホームケア事業部 長池 英二

衣類の廃棄が環境問題になっている中、調査によると※1、約8割の方は“衣類はできるだけキレイに長く使いたい”と思っているものの、環境省の調査では、家庭から手放された衣類の約7割が廃棄され、結果、廃棄量は約50万トンという現状です。

そこで衣類を廃棄する理由を調べると※2、“黄ばみや黒ずみ”や“色あせ”など衣類の色変化が主な理由であることがわかりました。

洗剤で、これらの色変化を防止し本来の色を保つことと、ニオイや汚れを落とす高い洗浄力との互いの両立は難しいとされていましたが、昨年発売の『NANOX one』は3つの独自技術を備えたコンプリート洗浄により、その両方を可能にしました。

もちろん『NANOX one』の標準は「すすぎ1回」です。すすぎの1工程を省くことで、洗濯機の脱水とすすぎの回転による衣類への負荷が抑えられ、衣類の長持ち、ロングライフ化にもつながります。“すすぎ1回”でも高い洗浄力発揮し、洗剤残りもありません。

服にそして地球に、ちょっといいセンチク(洗濯)をテーマに、より良い洗濯習慣をご提案してまいります。」

※1 2022年9月 WEB調査 ライオン調べ

※2 2022年9月 WEB調査 ライオン調べ 保有率5割以上の衣類の種類のみ



“すすぎ1回”のライオンの衣料用液体洗剤



「高い洗浄・消臭力」と「衣類の色を保つ機能」を両立
『NANOX one』



すすぎ0回OK
おしゃれ着用洗剤
『アクロンスマートケア』



おしゃれ着用洗剤
『アクロン』



『香りつづくトップ』



『トップ クリアリキッド』



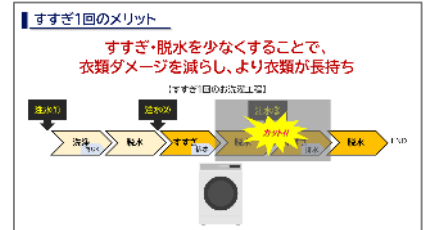
『トップ スーパーNANOX
自動投入洗濯機専用』



衣類の廃棄理由

衣類の廃棄理由は、色変化(黄ばみ・黒ずみ・色あせ)

自動洗濯機・トップクラスの縮減理由		一般の家庭のトップクラスの縮減理由			
1位	黄ばみ・黒ずみが気になる	53%	1位	色あせが気になる	41%
2位	汚れがひどいなどダメージが気になる	31%	2位	縮れや伸びが気になる	36%
3位	洗剤・アイロンが気になる	26%	3位	洗剤・アイロンが気になる	29%



【第2部 パネルディスカッション『「習慣」を起点としたサステナビリティに関する各社取り組みについて』】

続く第二部では、株式会社ツインバード 井上 淳也様、株式会社FABRIC TOKYO 土山 純史様、株式会社LIFULL 遠山 佳子様と、当社 金子 智之の異業種の4企業でパネルディスカッションを行いました。



—各社のサステナビリティの取り組みについて

株式会社ツインバード 井上様

家電メーカーとして2017年から洗濯機の開発をしていますが、すすぎ1回コースの洗濯機につづき、2023年はライオンさんがすすぎゼロの洗剤(『アクロスマートケア』)を発売されたと聞いて、業界に先駆けて、すすぎ0回洗剤専用コースの付いた洗濯機を開発しました。

またビジネスユースではありますが、環境負荷0のヘリウムガスを使用した環境に優しい当社独自技術のスターリング冷凍機は、電力やCO2の大幅な削減にも貢献しており、遺伝子型ワクチンやバイオ型医薬品、細胞等の搬送や保管に使われています。



株式会社ツインバード
執行役員 井上淳也様

株式会社FABRIC TOKYO 土山様

オーダーメイドのビジネスウェアブランドとして、ファッション業界の課題に向き合いながらサステナビリティに関するさまざまな取り組みを行っています。

そのうちのひとつが『WHITE FRIDAY』で、セールによって加速する大量消費とそれに伴う大量廃棄が課題とされるBLACK FRIDAYシーズンに行っているプロジェクトです。

生地が無駄を出さないよう、「工場に眠っている良質な生地」を使ったオーダーアイテムを提供したり、お客さまが生産元に直接行って商品を受け取るなど、“より愛着のある一着”を手にする体験をしていただく企画です。このプロジェクトが消費について考えるきっかけとなり、少しでも廃棄される服を減らすことに貢献できればと考えています。」



株式会社FABRIC TOKYO
事業開発チーム ブランドデザインチーム
Head of Strategy 土山 純史様

株式会社LIFULL 遠山様

事業を通して、暮らしの習慣や思い込みからくる社会課題解決に取り組んでいます。サステナブルの社会に向け、すまいの領域では、“住宅弱者問題”と“おとり物件”という課題があります。

高齢者やシングルマザー・ファーザー、被災者の方など、さまざまなバックグラウンドを持ち、すまい探しが困難な方にも親身になって相談に応じてくれる不動産を探せる『LIFULL HOME'S FRIENDLY DOOR』というサービスを提供しています。

また“おとり物件”とは、故意・過失に関係なく実際に契約出来ないのに不動産サイトで紹介されている物件です。不動産探しでムダな時間を費やすなど入居者の負担増にならないよう、自社開発AIによるおとり物件の検知などで課題に取り組んでいます。



株式会社LIFULL
クリエイティブ本部 ブランドコミュニケーション部
PRグループ グループ長 遠山 佳子様

—「Choose one Project」へのメッセージ

株式会社ツインバード 井上様

Choose one Projectに賛同します。衣類にさらに優しい洗濯機をライオンさんと一緒に開発していきたいですね。

株式会社FABRIC TOKYO 土山様

当社でお客さまにお届けしたビジネスカジュアルアイテムの大部分がウォッシュャブル仕様です。ライオンさんの研究所と共に実証実験を行うことで、オーダーメイドの洋服でも自宅で洗えることを一緒に啓発できたらと考えています。

株式会社LIFULL 遠山様

サステナブルのために何か特別なことをしたり、窮屈な思いをするのではなく、いつもの習慣や考え方を少し変えるだけで、エコな暮らしや環境にもつながる今回のプロジェクトの取り組みはとても良いと思います。私も今日から“すすぎ1回”にします。

最後に、当社 金子より

「このプロジェクトは、1年前から構想していました。ライオン一社では一部の領域しか解決できません。今後もこの考えにご賛同頂ける企業様や団体の方にもご参加頂き、こどもたちのためにこれからの未来を描いていきたいと考えています。」

と締めくくりパネルディスカッションを終了しました。



■パネルディスカッション 参加企業について

株式会社ツインバード <https://www.twinbird.jp/>

株式会社FABRIC TOKYO <https://fabric-tokyo.com/>

株式会社LIFULL <https://lifull.com/>



お問い合わせ窓口

ライオン株式会社 〒111-8644 東京都台東区蔵前1-3-28
<報道関係の方> コーポレートコミュニケーションセンター 03-6739-3443